

日本初のイスパニスタ門左衛門

統一テーマ「比喩」

Monzaemon, Primer Hispanista Japonés

近松 洋男

1. 門左衛門が背負う文化史的背景

門左衛門(1653~1724)が満30歳、劇作家として活動する前のことばかりか、つまり人間「門左衛門」だけでなく、門左の家が没後どうなったか、文学史は何も語ってくれない。本論文ではこの点、ある程度まで論及することは本テーマの性質上、避けられない。

1. 1. 門左出自：伝説曰く藤原家末裔三条三位中納言実次応任の乱で滋賀県浅井郷近く新庄村玉珠寺宿坊に避難。4代目杉森信重以降歴史的裏打ちあり：主片桐且元没後、稲葉濃州守正則配下1300石－信義：越前藩主松平忠昌の小姓、40代始め浪人－信盛門左衛門：満12歳1665年、元服直前、父浪人で上京途次母方祖父越前藩医岡本為竹の世話で滋賀県比留田の名医近松伊看の下に養子縁組と伝えらる。

近松家先祖：4c, 星山伽耶日本進出2根拠地：

東は比留田、支配者は新伽耶国司。室町時代末からの音韻変化でChikamatsu, 漢字名は古くから近松¹⁾。氏神は比利多神社²⁾。

西は淡路〔継体天皇迎えの大伴金村Kimsongの5世孫大伴親松連神祇官³⁾が近松の直系祖となり東西両中心は一体化。

以上歴史言語学者・東京外大 Asia-Africa研究所元教授 兪 昌均博士による。聖武天皇宣命、親松連指揮で近松衆が大仏鑄造、749年奈良大仏殿完成。10世紀、藤原秀郷(鎌太)の「三上山百足⁴⁾退治」での近松の敗戦が契機で宇多天皇皇子佐々木氏と同盟、佐々木源氏五家の一、在地領主(門左の数種の姓まで)となる。

注1)近松の古漢音は Kinsong：新羅語で‘官一等(の者)’の意。

注2)比利多神社：近松の遠祖・天孫降臨の際に道案内をした道臣命を祭神とする。Asia-Africa研究所元教授・歴史言語学者 Dr. 兪昌均によれば、本来当地比留田(比移の転訛)を日本進出基地とした星山伽耶(=星山^{ビリタ}から^{から} 唐^{ビリタ})人の祖国名星山に因む社名。11世紀に尾張より侵入の馬場氏に神社・先祖伝説を奪わる。数百m南の西河原・現在の二ノ宮に現存。

注3)神松連：*733年滋賀国司任官か？上記西河原森ノ内1984年発掘の遺跡は公邸跡？

注4)三上山の百足：滋賀県湖南の近江富士・三上山の辺りで砂鉄製鋼をしていた近松衆。

1. 2. 門左満12歳、大石良昭⁵⁾の世話で後水尾天皇の弟君一条恵観公の下、有職故実の雑掌勤め。近松家領分は信長すら保全⁶⁾。家康は権力把握後無償で召上げ、幕府と旗本とで米収穫折半、旧領主近松家無収入。[5c. スペイン西ゴートでは旧領主・征服領主・耕作者で

収獲を三分した故智につけ、更に幕府の御所財政締め付けもあり、手先吉良義央の横暴に密かに尊皇反幕。幕藩利己行政への反発は1701年 松の廊下刃傷事件、1702年 47士討入りで噴出。隠れた参謀門左は1706年『碁盤太平記』でナバラ人のザビエル城奪回、聖ザビエル業績に暗喩。これより、劇作家処女公演1683年『世継曾我』で赤穂・近松の復讐予告(2.1. 鯛).]

注5)大石良昭：赤穂藩派遣御所大膳太夫。10世紀藤原秀郷の末裔、瀬田大石郷領主。赤穂47義士リーダー良雄の父。

注6)近松道楽ほか一名が信長宛てた文書：「守山の一向宗に荷担せぬ事を条件に（領土保全を）」は国史では有名。

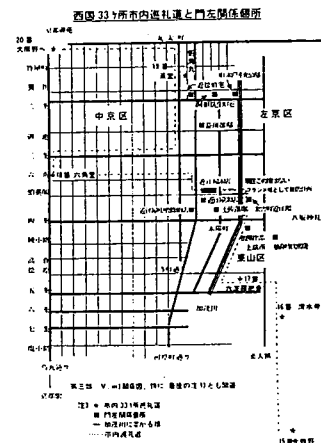
1. 3. 1672年19歳、主人他界、弟君・三井寺長吏と大石良雄の下、近松ヶ原 (Kinsong-bara 官一寺院) の高観音近松寺 (Kinsong-si '官一等寺院' に設立の国際関係ゼミで「スペイン語学と演劇、赤穂『塩の道』南方展開可能性探求、^{ルソン}呂宋事情地域研究」(19~22歳) 3年間。家康の「御所経済締め付け」に対抗して赤穂・長州による御所台所援助：大膳太夫大石良昭は赤穂白塩販路「塩の道」拡大政策を推進。ゼミ修了後門左29歳まで7年間の赤穂塩営業マン契約。約5年間、長州長門近松屋敷(旧名楳杜々)を中心に、北国船航路開拓努力。

1. 4. 長門滞在中「^{まつら}松浦党東南アジア海域開拓圏」二中心地：平戸、唐津の近松寺で那覇、福建、呂宋への「塩の道」伸展可能性探索。この支配圏模索を16c. スペイン・ラ米開拓英雄詩に暗喩。晩年傑作『国性爺合戦』シリーズで劇化。[注6]鯛。

1. 5. 延宝8年(1680)赤穂藩の塩専売令実施で「塩の道仕上げ」を目指し、北国船航路完成を目前に門左は大坂塩米市場準備、大津・比留田を中心に塩運搬舟8倍増計画・近江塩航路計画など天和2年(1682)に完成。赤穂との契約満了、淀屋橋14米蔵繁昌、米市場台頭。(後に堂島に移る。門左は京都3近江屋、大津米塩卸店創建資金を獲得)。

1. 6. 30歳幕府の探索を避け、処女作『世継曾我』を携えて四条河原に立つ。通称、筆名にスペイン語裏意あり。以上は門左自身ばかりか、近松家子々孫々の身の安全のため、門左の遺志・身辺厳秘のせいで文学史に欠落の門左30歳1683年以前の状況。以後の劇作家として活躍は周知の通り。

1. 7. 1700年、義士討入り2年前、門左47歳、尊王反幕・所領被没収の旧在地領主近松家復興・人材収攬策として1501年カトリック両王創建の巡礼道首部Santiago de CompostelaのHostal(病院兼宿舎)に対比して門左は3近江屋を西国33ヶ所巡礼



道くびれ部・京都蛸薬師木屋町と河原町の間^に創設。(1.5世紀後、近江屋本館茶室で公武合体会談)

1. 8. 上記1.4.の東南アジア海域探索後、スペイン・ラ米開拓冒険詩に想を得た晩年の『国性爺合戦』シリーズは長期上演記録樹立(国性爺は福建海辺安平城前「竜馬ヶ原」で敗れ、海上戦を経て台湾へ)。門左は画家で作品残存。自筆劇場招き絵の想像画:「陸海を征く王者の料馬・水中不沈の竜馬の像」。(下図参照)

康熙60年(1721),清国から琉球への冊封使記録の白眉・徐保光の『中山伝信録』は仏訳も出る。門左は*長崎で原典を入手か。『国性爺』を改訂、翌1722年1月『唐船伽今国性爺』を上演、北京・パリーに劣らぬ国際的早技。

門左衛門理想のソゾル「竜馬像」



(社)日本美術院所蔵・四田観水画伯願、打出維久造氏願。

1.5世紀後、海援隊尊皇の坂本良馬が竜馬と改名して感応、土佐藩邸の道を隔てた隣・近江屋の実昇、キクが門左7世孫なる偶然に感激。近江屋を定宿とした新門辰五郎の縁で京都御所警護の徳川慶喜、駿府より新村青年(語学新出博士の兄)、御所より岩倉公も参加、近江屋茶室で公武合体会談。スペイン・イザベル、フェルナンド両王創案の巡礼道首部のHOSTAL人材収攬策に暗喩した門左が狙った近江屋活用遺策が奏効、尊皇倒幕遂に達成!幕末、門左理想「竜馬」像の縁で坂本竜馬、門左5年の長州滞在も奏効・桂小五郎、この両雄が門左7世孫の茶室に出現するまで魂魄幕藩体制を見据え、子孫に委託の尊皇倒幕宿願終に実現。

2. Hispanistaとしての門左衛門の歩み

門左衛門、御所勤務で、幕府の御所経済締付け策と將軍の厳しい意思を伝達役吉良義央から直接間接に聞くうちに、佐々木源氏の一、近松家の一員として、農地経営権召上げの直接被害意識も手伝って、人知れず反幕尊皇の強い意思に燃え立って至った。

2. 1. 門左出自は貴種の出で、横暴行政に復讐したい心のたけを処女作1683年『世継曾我』に仮借、これがナアロ劇Ymeneoからの翻案と思えるが、己の出自、使命を暗喩、つまり5世紀にゲルマン族の一派西ゴート族がローマ帝国の一部スペインを征服、ローマ貴族Gimeniusの土地支配権を召し上げて三分法を旧支配層に強制、同家は衰微。15世紀末に旧ローマ貴族の子孫、Ymeneoが騎士位を獲得、平和裡に西ゴート系貴族である侯爵様の妹御に近づく。侯爵家の名誉を傷付けることを恐れた殿様が2人揃ってのお手討ちの所を、周

困の勧めもあり、終に侯爵の同意を得て結婚に辿り着き、若侍イメネオが侯爵の婿殿にとの1000年越しの「門左・曾我もの」の名誉挽回を成し遂げた。ナアロ劇集は宗教裁判にかかり、1573年版では刺激的な所は削られ、平穩上品な「仇討ちもの」となっている。農地経営権を幕藩行政に奪われていた門左は身につまされて劇Ymeneoを原語スペイン語で読んだことだろう。

2. 1. 1. 『若侍イメネオ物語』該当部和訳を紹介する。

前口上 イメネオが 姫に求愛 してるという
冗談めいた 噂をば 知って以来は、殿様は
姫御の事で 心をば 痛めてました。
お二人を 掴まえようと
侯爵は 策を考え 巡らせて 20
何時も自分の お小姓の トウ ルペディオをば
供ともに連れ、微行しのびで歩き 廻られる 日々だったんです。……
何故なら家名 に命を 与えるという 事で殿 45
が姫をあやめ ようとして おられたからです
が、二人を 結婚させて 世に出して やるのがむしろ
本当に 価値あることと 侯爵は 気付かれました。
上っ方 と従者達の 間にて … (盛大な婚礼で終わる)。50

Ymeneoの上品な仇討ち成就：侯爵家姫君と結婚し、劇の字面には出ていないが侯爵家名の次にYmeneoが付加された新姓、それに見合う領地がYmeneo夫妻に与えられ、5世紀に地に落ちたたローマ名家Giminius家の1000年振り名誉回復が観衆に言わず語りに判り、大団円。

2. 1. 2. 『世継曾我』第三段：(近松浄瑠璃の5段立てはルネッサンス劇Jornadas構成の模倣?)
…介抱、(曾我五郎、十郎の内縁の妻少将と虎なる2遊女が曾我兄弟の遺衣装を着衣)
母に兄弟の死を秘し、母御前に曾我兄弟最後の活躍を演じて見せる。その後、兄弟の死と虎に3歳になる十郎の子・祐若がある事が知らされる。

第五段：故・十郎の名代・朝比奈が祐若・虎・少将を伴い、頼朝の面前に参上、一切を言上。大將軍は一同を褒め上げ、祐若に先祖の知行を改めて与え、曾我の十五郎祐時と名乗らせる。名誉喪失、長年の屈辱が拭われ、万事めでたしで終わる。

門左、1683年『世継曾我』の処女上演だった。溯って1675年3年間の高観音こんしょうじ近松寺スペイン文学ゼミ修了、長門の近松屋敷5年、京・大阪・長州2年間公務の合間に想を練ってのルネッサンス劇手法翻案。自身の反幕、家名回復執念の秘めやかな表明でもあった。

2. 2. 幕藩行政による上記の近松農地管理権の無償召し上げ、御所経済援助財源を生み出す赤穂藩の「塩の道」政策への將軍・吉良義央の不当な圧迫がやがては（当時としては未来、1701年の事となるが）爆発、赤穂藩主の吉良義央への刃傷、続く47勇士討入りを予測しての劇作(1683年)だった。スペイン1世紀半前の強引なアラゴン王フェルナンドの対仏強硬政策・ナバラ領通過強要、ザビエル城明け渡し要求にナバラ人が反発、ザビエル城奪還・聖ザビエル業績へと続くスペイン史の精華を、門左は暗に比喻として胸中強く抱き締め、大衆受けするよう表現に遊女を絡ませ、和らげての赤穂の反撃予告処女劇作『世継曾我』だった。（上演までの行政当局との密かなやり取りで遅延、討入り3年半後、1706年、門左満53歳『碁盤太平記』は討入り報道劇。後の国民劇『忠臣蔵』の原本。宗教的にも尊王倒幕宿願でも異質ではあるが、『忠臣蔵』で後世日本国民に残した影響に関する限り、門左衛門は「日本のサビエル」だ！）

2. 3. 門左満19歳、御所有職故実雑事（雑掌）、主人一条恵親公ご他界、弟君、三井寺長吏様^{こんじょうじ}赤穂大膳太夫と意見一致：御所経済援助財源「塩の道」拡大策の一端として高観音^{こんじょうじ}近松寺「国際関係論ゼミ」での呂宋^{ルソン}地域研究の基礎・スペイン学に打込み：基礎スペイン語の後、トレス・ナアロのルネッサンス劇集 Propalladia ^{すば抜きニュース劇}をセファルデー老師の指導で研修。「塩の道」営業マン契約7年（5年長門近松屋敷を根城として日本海沿岸「北国航路開拓」、南方「松浦党と連合・福建を望んでの那覇航路開設の可能性を探索」）。1682年 満29歳、契約満期で大阪米塩市場確立を予測して引退、近松本家在所・比留田の持船隻数8倍増計画実施、大津に米・塩卸確立、義従弟に一任。貧窮在地武士経済から近代卸経済に。尊皇反幕態勢、子孫まで期待。行政圧迫を避け名門の誇りを捨て、30歳から四条河原で作劇活動。仇討ちもの、遊女もの、心中もの：門左の特徴を見せる作品はTorres Naharroの「すば抜きニュース劇集」の作劇態度が背骨となっている事に注目。

2. 4. 門左満46歳、1699年「傾城ものシリーズ」第三作『傾城仏の原』はナアロ劇集第一作『辻君 ^{セラフィナ}「天女」物語Serafina』（楯ナポリ1517年）劇マドリー版1573年対応の作品か？

“Serafina”前口上

先ず最初 ^{はしため}に下婢^{ドロシヤ}たる 愁子^{さが}どんが 登場して参りますけど、
 そりゃ「花のきみ」を探しに
 主人「天人」^{あるじ セラフィナ}が愁子^{ドロシヤ}どんを送り出したからですよ。
 またその伊達者^{だてもん}については
 彼の現在の状況が状況なので、とっても
 そういう事はやれもせぬのに何故彼が
 もう一人、「天女さま」とはまた別の^{セラフィナ}婦人^{めと}1)を娶る
 理由をば 愁子^{ドロシヤ}どんを探らせる為^{ため}なのであります。^{オルフェア}註1) 処嬢「弁天」のこと

第五幕：たまたま「花の御前」の弟、「邦夫の君」が武者修行の旅から実家に帰っていることを隠者神父の学僕「道人」は皆に知らせようとする。「邦夫」は「弁天」への焦がれる恋を隠して旅に出ていた。「隠者坊」²⁾は二組の結婚を宣言：一組は「邦夫」と「弁天」、もう一組は「花の君」と「天女様」。大団円。第五幕めでたく幕降り。注2) 教会から孤立。野にある樹

10人の登場者の出身地の違いから夫々ロマンス諸語訛り丸出し：解説者がロマンス語の講釈をする一場面がある。門左が作品中しばしば京言葉、大阪弁、防長訛りなど、各種方言遊びを見せるのはこのナアロ・ルネッサンス劇のロマンス語遊びを暗喩。

Torres Naharroの劇集第一作“Serafina”に対応、門左が世に問うた遊女で「お家」が揺らぐ「傾城シリーズ」第三作『傾城仏の原』：(括弧内はナアロ劇部分)

越前の国主梅永刑部には(カステイリヤの殿様には)文蔵、帯刀という2人の子(花の御前と邦夫の君)があった。兄文蔵は、三国の遊女奥州と(花の御前は、遊女天女様)と馴染んでいたが、奥州が引かされた(隠遁聖者と岳父殿の勧めで形式結婚した)ので、今川と深い関係(花御前が遊女天女と深い仲：岳父殿の娘・弁天が形式だけの処女妻の身分)になった。弟の帯刀は兄の放蕩を種に乾介太夫(隠者坊)なる浪人を味方に引入れ、彼と闘って兄を追放する(弟の邦夫の君は人知れず恋い焦がれている弁天が、兄の処女妻になったので武者修行の名目で家を出て、皆から離れる)…

(ナアロ劇ではむしろカステイリヤの殿の名誉はこの後、次男「邦夫の君」によって守られ、お家安泰が観衆には推定され、大団円)。

ここに劇の全体像は描けぬが、門左の『傾城仏の原』が絶妙にナアロのSerafinaと対応している。

2. 5. 赤穂藩主を先頭に朝幕対立、1701年浅野長矩公切腹、復讐では2. 2. で見た様に、門左は心中、己を聖ザビエルに擬え、ザビエル城奪回ナバラ兵討入りを念頭に近松家から3壮丁を47義士団に送り込み、聖ザビエルとは別の道ながら『忠臣蔵』永遠の名誉を得る。

2. 6. 一世紀前のスペインのラ米開拓英雄詩を手本に、1715年、門左満62歳松浦東南アジア海域英雄詩『国性爺合戦』を生涯の大劇作として世に贈り、当時としては最長公演記録を樹立。更に『国性爺合戦』シリーズとして生涯最後段階まで奮闘：1717年『国性爺後日合戦』、1720年67歳『国性爺合戦』(2度目)上演。1721年冊封使徐保光の琉球報告に感銘、前作を改訂、1722年満69歳『唐船断今国性爺』。門左はある意味で鎖国政策に背きつつ、日中混血児鄭成功の擬倭寇的活動をすっぱ抜き、肯定的態度を示していることは注目に値する。

以上年代順に門左のHispanista振りを列挙した。年代順から離れ、別の項目を検討する。

2. 7. 劇作では2.1.2.で仄めかした「ルネッサンス劇が5 jornadas仕立て」から「門左の劇作品も5段立て」なる仮説、2.3.で提案したTorres Naharro式「すっぱ抜きニュース性」重視は作品比較をすると、門左のスペイン・ルネッサンス劇、特にTorres Naharro劇作品研究による模倣部分が多いと断定し得よう。

2. 8. 門左とナアロ作品群の統計的類似度完全類似（ルネッサンス前西欧劇主テーマは王侯）
ナアロのルネッサンス劇8作品では：Serafina辻君天女様物語、Soldadesca兵隊物語、Tinellaria厨房物語及びCalamita磁石娘物語の4作品が遊女もの、Ymenea若侍イメネオ物語、Jacinta錦百合の君物語2つがプリンスもの、Trofea戦勝記念碑物語、Aquilana若鷲王子物語の2作品が王様もの。

∴ Σ 遊女もの = Σ 王侯もの（王様もの+プリンスもの）（=4作品）

2. 8. 1. 門左全作品での一つの柱・王侯ものと貴種もの：

①Princeの6作品：『日本西王母』1701年、『御曹子初寅詣』1701年、『百合若大臣野守鑑』1710年、『日本武尊吾妻鑑』1720年、『信州川中島合戦』1721年、『大塔宮曦鏡』1723年。

②貴種ものは12作品：『出世景清』1685年、『薩摩守忠度』1686年、『主馬判官盛久』1686年、『源氏烏帽子折』1690年、『大覚大僧正御伝記』1690年、『融大臣』1692年、『百夜小町』1695年、『当流小栗判官』1698年、『最明寺殿百人上り』1703年、『源義経将基経』1705年、『源氏冷泉節』1710年、『井筒業平河内通』1720年。

③王様もの6作品：『天智天皇』1686年、『用明天皇職人鑑』1705年、『嵯峨天皇甘露雨』1714年、『持統天皇歌軍談』1715年、『豊年秋の田天智天皇』1715年、『聖徳太子絵伝記』1717年。

王侯もの（①+②+③）：24作品 [1]

2. 8. 2. 門左もう1つの柱、遊女もの（作品名略）：

④「傾城もの」13作品、⑤「心中もの」9作品、⑥「それ以外の遊女もの」2作品

遊女もの（④+⑤+⑥）：24作品 [2]

∴ [1]. [2]より Σ 「王侯もの」= Σ 「遊女もの」（=24作品）

興味深い統計結果：トレス・ナアロでも門左衛門でも次の関係が見られる。

Σ 「王様もの」= Σ 「プリンスもの」

Σ 「遊女もの」= Σ 「王侯もの (=王様もの+プリンス・貴種もの)」

ナアロと門左に200年の時間差があるのに、劇作基本姿勢にこのような共通点があるのは

i) 門左の青年期のナアロのスペイン劇研修が身に付いていたこと、

ii) 元禄前後の門左活動期日本社会がスペイン・ルネッサンス社会と類似の状況だったためと推定される。それにしても、ルネッサンスの特徴である「遊女もの」がそれ以前の

「王侯もの」と拮抗しているとは、門左は社会観、社会事象報道の仕方ではHispanistaだと申せよう。

3. 名前、通称、筆名に見る門左衛門のHispanista振り

3. 1. 門左衛門

3. 1. 1. 「門の左に控える守衛」：先祖「親松連」の関連か、「天皇もの」作品の対象が7、8世紀で、門左自身6作品に登場の諸「天皇の宮殿の守衛だ」と選った名。当時宮殿守衛は隼人^{はやと}で、彼等は「犬」に譬えられ、しばしば吠え、「犬鳴き」したと言われる。これによれば「門の左に控える犬守衛」で、門左22歳、1675年、高観音近松寺「国際関係ゼミ」3学年・最終学年、セファルデー老師匠から「スペイン首府マドリーの劇場専属劇作家Lope de Vega, 1635年没。Lope<Lat. Lupus狼, vega肥沃な大畑地‘畑地の狼守衛’戯名らしい」と学んで、己を7.8c.の御所の守衛に擬え、この大劇作家の名に因んで「(斬り) 門の左に控える犬守衛」なる名前は「幸先よい」と考えたようである。スペインが生んだ大劇作家没後40年目のことであった。

3. 1. 2. スペイン語名：M' unza e m' un' (e). [文尾のeは力抜け、無発音] ‘私にくびきを着けて下さい、されば私を（貴方と）結び付ける’。úはoに近く門左はそのスペイン語に門左衛門なる漢字を当てた。だが門左はM' unzaを「もんざMonza」と読む事、y(=and)を古俗語eで表しているのが気になってか、「文才門B' unza y m' un'」 ‘文才浅く門に佇む’とも称していたとは、我が家で親しんで来た名称で、我が祖父、門左7代目当主・新義真言宗大僧正よりの伝聞（mは度々bで代替：samishii>sabishii）。広辞苑著者新村出先生に申し上げた所、「文才門と書いた文書があると聞いている」とのお話し、「スペイン語説と共に世に問うがよい」とのお励ましを頂いた。1962年4月お宅で、予てご期待のイスパニア語学科が京都外国語大学に設立との報告をした時の事である。

3. 2. 巢林子（そうりんし）：

門左は赤穂大膳太夫との契約で5年間山口県長門を根拠地として「塩の道」開拓事業に従事したが、公務の合間に土地の好き者を相手に自ら和訳したナアロ・ルネッサンス劇を演じた野外円形劇場があり、門左衛門巢林子の大石碑が立っている。現在その辺りの子供がこの碑の周囲で手を繋いで回りながら「すりんこ・ちゃん」を連呼して遊ぶという。その地の門左ファンは「これが門左在世中からの慣習（ならわし）」かの如く得意げに述べる。これは湯桶読みと重箱読みを重ねる不自然な呼び名、有り得ることかも知れないが、門左程文才豊かな人が単なる音の連続、何の意味も感じられない筆名を名乗るだろうか？

3. 2. 1. 叢林は仏教語で‘寺院’特に「禅寺」。巢林子<叢林子「禅寺の子」。禅善

提寺‘玉殊寺の子’を振った？それとも子に敬称語尾の響きを持たせ、‘禪門聖（ひじり）’だろうか？しかし門左は世に知られた禪宗嫌いなので、皮肉な戯名かも知れない。

3. 2. 2. 叢林‘樹木の群がる林’+子‘小さな物’（maleのpart?）。門左は22歳までの3年間のSefardi 老師の薫陶でバイのLope de Vegaの好敵手 Calderón de la Barca(1600~81)は当代の大劇作家だと聞いていた。西欧ロマンス語では organo sexualの文法性は自然性とは逆。calderón m. ‘大釜’[大形organo femenino], barca ‘小舟’ organo masculinoの裏意を持つ戯名なることも門左は知っていた。劇作家の言葉遊びに準じて叢林子organo masculino 説を漂わせたまま、同発音の巢林子を自称した言葉遊びの可能性は否定出来ぬ。

3. 2. 3. 全くのスペイン語：Sol en sí ‘観客各人様の太陽’。enは俗ラテン語ではinだから「ソーリンシ」。門左衛門、巢林子：M’ unza e m’ un(e), Sol en sí, 「観客各人様、心の太陽が私にくびきを着けてくれたらよい、さすれば私をあなたと結び付けてくれるんだ」。Sol en sí は切支丹信仰でのJesucristoかも知れない。しかしこの1句で門左が切支丹と決め付けられないとは、言うまでもない。事実はこの3つ総合の通称か。

3. 3. 別のペンネーム不_レ移山人、散人（山人）不_レ移子の裏意

既に見た様に門左・浄瑠璃5段構えはスペイン詩劇の5Jornadas との関連で門左が決めたのであろう。16世紀初めのTorres Naharroはこの劇形式で成功した初期の劇作家である。

Naharro<navarro adj. Navarra の、山国の(Navarra<バスク語naba ‘盆地、高原’), Torre ‘塔’。Torre(s) Naharro「山人の塔堂、山男の聳える塔(erotic nameによる戯名?)」。

3. 3. 1. 筆名の一部「不_レ移」を検討する：

不_レ移山人=Fui navarro ‘私は山男だった’。

不_レ移：fui …、または…fui = I was … (and not another) ‘私…であった（そして他には移りようがなかった）。fui の音ばかりでなく、意味まで写しとって見事である。

3. 3. 2. 散人 (= 山人) 不_レ移子：

山人不_レ移(子) = [(子)：雅名を作る語尾] Navarro fui, & neh? 私は山男だった(ね)。スペイン語では fuiの補語は fuiの後ろにあっても前にあっても等価。不_レ移 fuiが前にある3.3.1, 不_レ移 fuiが後ろにある3.3.2.より見て、門左がスペイン語ができた貴重な証拠。

しかし古来、国文学の説く所では「山人は深い意味は問わず、書画作者の署名の下に付ける接尾辞」となっている。されば国文学的見地からすれば、不_レ移山人と散人（または山人）不_レ移は等価ではないことになる。それどころか散人は「山人」の代わりとは参らず、

散人（*散所の人）不移に穏やかならざる響きを感じる向きもなきにしもあらず、門人はむしろそれを知りながら読者の解釈に任せて、ほくそ笑んだのだろうか…？ スペイン語では Fui navarro. と Navarro fui. は全く等価値だが、日西発想の違いを利用した上での門左の戯名なのだろう：スペイン語を知らなければ出来ない言葉遊びである。スペイン文化とは無縁の門左研究者の目には届かぬ門左の「いたずら」なのだろうか。

3. 4. 通称 平馬（へーま）のスペイン語裏意

「平馬」は通称となっているが、幼名でない限りは、御所侍、高観音近松寺での研修を終え、赤穂塩業の営業マンを経て、劇作家として署名を残す1687年34歳以降ではないか…。この頃になると ge（古スペイン語「ジェ」）と je（現代スペイン語「へ」）は同じ「へ」（cf. ヨーロッパ諸国では17世紀はじめの Don Quixote ドン・キョットなる発音を残しているが、スペインでは Don Quijote キホテ）となる。この考察が正しければ、門左がスペイン語発音変遷を正確に把握していた証拠となる。「平馬」の発音に相当するスペイン語名詞は g e m a 「へーま：1. 宝石、2. 芽」。今まさに教養人の「芽」として世に出る己を内心高く「宝石」と評価し、対外的には「平凡な鈍馬」なる漢字で「角隠し」したのだろう。

3. 5. 別称 平安堂 のスペイン語裏意

表面上「都に活動センターを置く芸術家」なる印象を与える。これも Sefardi 老師の下でスペイン語演習を修了した一証拠と見る： f e a n d o. ‘私は信頼そのものとして生きる’（andar 不完全自動詞「歩く、…として生きる」）。「平安堂」とは上手な和訳。

筆名、通称、別称いずれを取っても、スペイン語との関わりが伺われ、しかも巧みな言葉遊びの下、「巢林子」のぎこちなさを除けば、生粋の和名との印象を与えることに成功、勝手なこじつけと非難する向きにはスペイン・ルネッサンス劇作家が戯名を常としていることを考えて頂きたい。門左の戯名自体、HISPANISTA 門左説最高の拠り所である。

1 の数ヶ条、2 と 3 の各節より見て、門左衛門は日本最初の Hispanista と断定する。

参考文献：全部を列挙出来ないので主要なものだけここに記す。

- 『近松門左衛門』河竹繁俊 吉川弘文堂 『近松と浄瑠璃』森修 橘書房
『忠臣蔵・その成立と展開』松島栄一 岩波新書 『スペインルネッサンス劇集』近松 風間書房
『España』Servicio Informativo Español 『Propalladia』Torres Naharro 劇集原典
『世界の人間像（聖フランシスコ・ザビエル）』Andre Versar 『塩及び魚の移入路（『塩の道』資料）』田中啓爾 古今書誌
『塩の道』宮本常一 講談社学術文庫 『新大阪市史第三巻1688年以前編の戯』大阪市
『海部屋記録解編』大阪市史編纂所船刻印方 『検地帳近松文書館7年』長岡技術科学大学
『新姓氏録抄』（編纂）神道大系編纂 ほか多数。